



館内・庭園散歩

<さくら>

憲政記念館に隣接する国会前庭には様々な花木が植えられ、四季を彩っている。春を代表する花木といえば約 150 本を数える桜であろう。昭和 40 年以来、「日本さくらの会」により記念植樹が行われていることもあり、実に 35 種類の桜が植

えられている。これらは、開花の時期もそれぞれ異なり、2 月初旬から 4 月中旬までの長い間その姿を楽しむことができる。ここでは、数ある桜の中から 2 本厳選して紹介する。是非お昼のひと時にでもご来館されたい。

① 染井吉野（北地区）3 月下旬開花

薄紅色

最もポピュラーな品種。葉が出る前に花が咲くのが特徴である。



② 鬱金（うこん）桜（北地区）4 月中旬開花

黄色

数百品種ともいわれる桜の中で、唯一黄色の花を咲かせる非常に稀少な品種である。



<絵画紹介>



「時計塔」高橋正博



「憲政記念館」保科正裕



「国会議事堂」田村丈馬



「国会議事堂」堀越文男



「時計塔」正岡泰輔

<日本水準原点について>

国会前庭北地区には東京都指定有形文化財「日本水準原点標庫」があり、その中央の扉を開けると水準原点が設置されている。土地の高さ（標高）は平均海面を 0m として、そこからの高さで表すが、実用的には地上のどこかに標高の基準点（水準原点）を表示する必要があるため、1891 年（明治 24）にこの地に設置された。水準原点を示す水晶板目盛りの 0 の高さは、当初は東京湾平均海面上 24.5000m であっ

たが、地震による地殻変動に伴って改定され、2011 年（平成 23）3 月の東日本大震災後に 24.3900m となった。

水準原点は通常見ることはできないが、国土地理院は毎年「測量の日」記念行事として一般公開を行っており、本年は 5 月 18 日（水）を予定している。



所蔵資料紹介



このたび、明治時代に衆議院議員が東京湾上の砲台（海堡）を参観した際に発射した砲弾の薬莖を展示することになった¹。全長約 1m、直径 17.5cm、

議員に公開したのは、施設のお披露目とともに、日露戦争後もなお、軍備の重要性をアピールするためでもあったろう³。参観は朝 9 時に新橋駅発、横須賀の波止場から海堡に渡り、昼食をとって夕方帰京する日程で⁴、当日は衆議院の庶務課員も加わった。参観にあたり陸軍部内では、第二海堡で議員に実弾射撃を見せることや使用する砲塔・弾数について達（たっし）が出ており⁵、展示する薬莖もその一つであることが裏付けられた。

重量約 10 kg の真鍮製である。側面に「陸軍省寄贈 克砲塔十五珊速射加農薬莖 衆議院 明治四十一年三月二十三日本院議員海堡参観ノ際発射ニ使用セシモノナリ」と書かれている。底面には「PATRONENFABRIK KARLSRUHE 1906」とある。当時、陸軍は富津岬・観音崎間に第二・第三海堡を建設していた²。一般人が近寄れない砲台を

正 3) 竣工。第三海堡—観音崎側。1892 年着工、1921 年竣工。第二・第三ともに関東大震災で機能喪失。

³ 『富津市富津第二海堡跡調査報告書』（国土交通省 関東地方整備局 東京湾口航路事務所）。砲台工事は 1907 年 3 月に中央の砲塔砲を除き竣工しており、同年 2 月には 15 cm 加農砲の試射を行っている。

『日本議会史録 1』p. 385 西園寺政権は議会で過半数に届かず、増税案も相まって野党は対決姿勢を強めていた。

⁴ 3 月 16 日から 18 日までの『衆議院公報』広告欄。

⁵ 『陸軍省大日記 明治四十一年乾 式大日記三月』「衆議院議員海堡出入ノ件」（防衛省防衛研究所）「砲塔十五珊加農（克砲塔及参砲塔各一基ヲ使用スルコト）四発」とある。「克」式とはクルップ社製をさし、砲身その他が外国製であったことを示している。

¹ 2 階展示室にて展示中。

² 第一海堡—富津岬側。1881 年（明治 14）着工、1890 年竣工。第二海堡—湾口中央。1889 年着工、1914 年（大

憲政の十傑 一 大隈重信



〔国立国会図書館所蔵〕

【略歴】

1838 年（天保 9）、佐賀藩に出生。藩校弘道館を経て長崎に出て英学を学ぶ。明治新政府に出仕して頭角を現し、その後参議となつて大蔵卿を兼ね大隈財政を展開した。1881 年（明治 14）、明治十四年の政変で下野して翌年、立憲改進黨を結成。1888 年に外相に就任し条約改正交渉にあたるも遭難。その後、進歩党党首となる。第 2 次松方内閣で外相。1898 年には板垣退助率いる自由党と合同し憲政党を結成し、わが国初の政党内閣となる「隈板（わいはん）内閣」を発足させたが党内分裂し、同年憲政本党を結成。その後、政界の第一線から退いたが、復帰して 1914 年（大正 3）には第 2 次大隈内閣を組織した。1922 年 1 月逝去。

【憲政において果たした功績】

政治家としての大隈にはいくつもの転機があった。参議として国会の早期開設と議院内閣制を主張し意見書を提出するも、大隈追放で結束した藩閥勢力によって政府を追われた。その後、立憲改進黨を結成して自由民権運動の隆盛を支える。やがて条約改正交渉打開のため請われて外相となるも遭難し右足切断の重傷を負い志半ばで再び閣外に去る。政府と対立、時に妥協、提携しながら着実に勢力を拡大して、わが国初の政党内閣を誕生させ、薩長閥以外の出身者としてわが国初の内閣総理大臣となる。大正に入り根強い待

望論を受けて再び内閣を組織している。はじめ政府にあって野に下り、召されて内閣に列し、またある時は辞しというようにその立場は変化したが、政党政治の確立と民権の伸長への志は貫かれた。葬儀は国民葬として執り行われ、広く国民に愛された大隈との別れを惜しむ列が途切れることはなかったという。

【エピソード】

政治は吾輩の使命と宣明した大隈は、国民に基礎を置く立憲政治の発展にその生涯を捧げる一方、有為な人材が機会を得られず不遇にあることを憂慮し有力な私学建学を構想したが当初から政府の厳しい圧迫を受けた。曲折を経て創立 20 周年に挙行された式典には伊藤博文の姿もあつた。伊藤は席上、大隈が教育機関を濫用して政党拡張の具とすることは断じてなかったと述べ当時の認識を誤りと認めた。大隈は感慨を込め、「二十年以前は私も今少し若い男であつた。が、御覧の通り、今は段々と年を取つた。ところがこの学校はこれは反対で二十年間に驚くべき発達をした。人は一度死ななければならぬものであるが、この学校と云うものは殆ど不老不死である。否、段々成長して発達すべきものである。」¹と述べた。また大隈はこうも語つた。「人生は誠に短いものである。世界に千歳の家なく、如何なる豪傑、如何なる富者たりとも、千歳の寿なし。人類は新陳代謝するのである。」²

¹ 大隈侯八十五年史会編著『大隈侯八十五年史第二巻』

² 同上

常設展企画展示のご案内

< 1 階玄関ロビー >

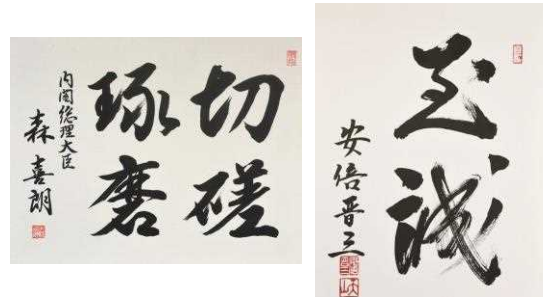
当館に所蔵されている写真フィルムのうち、第 50 回国会（1965 年（昭和 40））から第 61 回国会（1969 年（昭和 44））の写真の一部をパネルにして展示している。当時の佐藤榮作総理や三木武夫外務大臣、福田赳夫大蔵大臣等の写真で昭和 40 年代前半の国会を振り返る。



「憲政記念館所蔵フィルムで見る
昭和 40 年代前半の国会の風景展」

< 1 階中央ホール >

当館には、議員直筆の色紙が多数ある。今回は、歴代内閣総理大臣のうち、森喜朗総理（第 85 代）から現在の安倍晋三総理（第 97 代）まで 8 名の色紙を展示する予定（開催は 4 月 1 日（金） ～）である。



「書に映る総理の心 色紙展」

< 編集後記 >

今号は、お気づきのように紙面に絵画を入れさせていただきました。これらの画伯？たちの紹介をしたいと思います。彼ら 5 人は、国会前庭の清掃を担当している当館の非常勤職員です。彼らは毎日、寒風、酷暑をものとせず広大な庭園の落ち葉拾い、枝処理、除草などをプライドを持って一生懸命行っています。当館は、平成 23 年 4 月より知的等の障がいのある方を庭園清掃職員として受け入れております。当初は、我々も本人たちも手探りの状態が続きましたが、作業主任の職員や支援団体の方の粘り強い指導と何よりも本人たちの成長もあって今日のような姿になりました。さて、いよいよ春が到来し、当館の庭も桜満開となります。ご来園の際には、是非彼らのことも頭に思い浮かべてください。なお、ごみ等は各自お持ち帰りください。（若林）

【発行人】 花島克臣
【編集責任者】 高橋和彦
【編集長】 若林智伸

【印刷・発行】 衆議院事務局 憲政記念館
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-1-1
TEL : 03-3581-1651 FAX : 03-3581-7962

本紙について、私的利用・引用等著作権法で認められた行為を除き、無断で改変・転載・複製を行うことはできません。引用される場合には出所を明示し、また、転載等を行う場合にはあらかじめ当館へご連絡ください。